

二浦小学校



あゆみ

- 明治 8 早浦校、亀浦校創立
- 25 尋常小学校となる
- 大正 11 白石尋常小学校と改称
- 12 白石尋常高等小学校と改称
- 昭和 16 白石国民学校と改称
- 29 牛深市立二浦小学校と改称
- 44 校章制定
- 63 新校舎が完成
- 平成 10 体育館が完成
- 18 天草市立二浦小学校と改称

牛深小学校



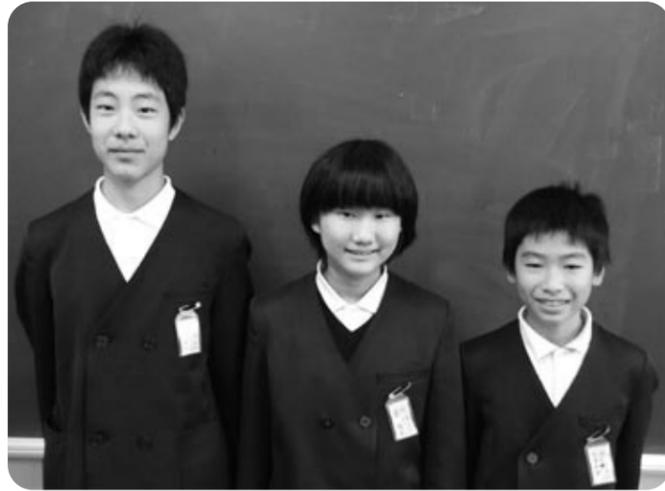
あゆみ

- 明治 8 寺子屋教育として発足する
- 22 尋常牛深小学校と改称
- 昭和16 牛深国民学校と改称
- 29 牛深市立牛深小学校と改称
- 40 鉄筋3階建ての新校舎が完成
- 47 第二校舎・第三校舎落成、体育館が完成
- 平成 18 天草市立牛深小学校と改称
- 24 新校舎が完成

ありがとう 二浦小学校

最盛期は全校児童376人(昭和31年)を数え多くの卒業生を輩出した二浦小学校も、平成25年度は全校児童19人となり、私たち3人が最後の卒業生となりました。閉校するのは寂しいけれど、6年間でたくさんの思い出ができ、今も私たちの心にキラキラと宝石のように輝いています。多くの人に支えられたおかげです。

ありがとう、地域の皆さん。ありがとう、家族。ありがとう、先生。ありがとう、今まで出会ったすべての人たち。そして、ありがとう、二浦小学校。



最後の卒業生 (=写真左から)
濱崎 康生くん・迫中 陽香さん・松鼻 利樹くん

親子3代が通った母校に感謝

私が入学したのは昭和14年で、桜が咲くころに胸をふくらませて正門をくぐりました。3年生の12月には太平洋戦争が始まり、軍国主義教育として遠足は海軍記念日に亀浦湾入口瀬戸へ、陸軍記念日には石神山などの周辺の山に登ったことを覚えています。

今、小学校の前を通ると正門だけは昔のまま、当時のことが懐かしく思い出されます。閉校は寂しいですが、親子3代が通った母校に感謝しています。ありがとう、二浦小学校。



昭和19年度卒
平田 良三さん
(二浦町早浦・81歳)

真新しい校舎の記憶がよみがえる

私が5年生のときに、現在の校舎に建て替えられました。真新しい校舎は廊下が広く、うれしさのあまり走りまわったり、休み時間には運動場でみんなで“ひまわり”をしたりして遊んだ記憶がよみがえります。

母校が閉校することはさみしいですが、またこの校舎が今後いかされていくことを期待しています。在校生の皆さんは、新しい場所で新しくできる仲間とともに、学校生活を楽しく過ごしていただきたいです。



平成元年度卒
福本 文子さん
(二浦町亀浦・36歳)

“牛深っ子”の一員であることが誇り

牛深小学校は平成26年4月、二浦小、魚貫小、天附小と統合し、新たな小学校になります。懐かしい旧校舎や立派な新校舎、そこに集う友だち、先生、お父さん、お母さん、卒業されたたくさんの先輩方、地域みんなに「ありがとう」という感謝の気持ちを伝え、元気に新しい第一歩を踏み出そうと思います。

『精いっぱい学ぶ黒潮パワーの牛深っ子』『何事も笑顔で乗り切る牛深っ子』そんな牛深っ子の一員であることを、わたしたちは誇りに思います。



最後の児童会役員 (=写真左から)
〔後列〕佐々木 勇輝くん・宮原 綾太くん・久保 宗佑くん
吉浦 佑哉くん
〔前列〕唐田 菜尋さん・岸谷 陽くん・榎田 彩花さん

時代とともに変わりゆく校歌

「ああ荅南に咲きそめし」で始まる校歌は、私たちは「集うわが友二千名」と歌い、叔母たちは「三千名」、そして子どもたちは「一千名」と、ときがたつにつれて歌詞が変わっていくことが珍しく、また懐かしくも感じます。運動場にある「せんだんの木」は、私たち子どもたちをこれからも温かく見守ってくれることでしょう。新しい小学校では、ほかの地区の子どもたちといっしょに、伝統ある小学校を築いていただきたいです。



昭和50年度卒
江上 美和さん
(牛深町・50歳)

新たな歴史を刻むことに期待

私たちが通学した牛深小学校も一区切りということで寂しい思いもしますが、現在の少子化の時代ではしかたがないことかもしれません。私が通っていた当時は、旧南消防署や牛深幼稚園があるところは田んぼでした。木造の第一校舎の窓ガラスには、よく野球のボールがあたるので針金の網が張ってあったのを記憶しています。

今後は、新たな歴史を刻みながらすばらしい伝統を築いてほしいものです。



昭和27年度卒
早水 英雄さん
(牛深町・72歳)